

## 平成 26 年度 倉吉総合産業高等学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

有為な人材を育てるという教育目標が学校全体で共有され、その目標に向けて一体となった教育が実践されているといえる。その背景には、学校長等管理職の意図と教職員の実践が齟齬なく整合する経営、組織の分掌と責任の明確化、教職員間の信頼関係とコミュニケーション等があり、加えて教職員の生徒に対する愛情が見受けられる。その結果として、生徒は3年の間に必要な力量をつけ、就職・進学へとステップを進めている。

総合的に見て、当該校は非常によい状態にあり、かつそのよい状態を継続的に維持する仕組みが整備されているといえる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 遅刻削減の取組に象徴される生徒の基本的態度の指導は、優れている。その手法として、形を重視し習慣付けることを徹底しているが、そのことが効果を上げている。
- ② 進路指導においては、本人の適性を見極め、早い段階から時間をかけて指導をしている。そのために進路指導部と担任が中心となり、更に全教職員が関与し、学校をあげて取り組む体制ができている。結果、就職率が高いというだけでなく、卒業後3年間の離職率が全国平均に比べて極めて低いという成果を得ている。
- ③ 生徒のモチベーションを高めるために、彼らの目標を、学校内考査及び専門資格の取得という身近でわかりやすい形で提示している。その結果、生徒は目標に向かって努力し、目標達成によって満足感と自己肯定感を得ている。
- ④ 会社経営者、先輩（進学者と就職者）、大手進学塾講師等の外部講師の活用、またインターンシップの体験など、さまざまな手段によって生徒に勤労観や職業観を植え付けている。その結果、生徒は主体的に進路選択する能力・態度を獲得している。
- ⑤ 「くらそうや」に代表される課題研究は、特色があり、かつその教育効果が大きい。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 公開授業・研究授業は、一通り実施されているが、より強力な取組を期待する。例えば、学科、教科を超えて授業研究することによって、指導法の工夫、改善、生徒再発見へつながる可能性を探求していただきたい。
- ② 専門職に関するより高いレベルや応用分野への挑戦を期待する。例えば、マーケティングリサーチ、地域商品開発、国際交流などを通じて、幅広く学ぶことができれば、専門分野以外でも適応できる発想力豊かな人材育成につながるであろう。
- ③ 教職員は、授業、部活動、生活指導、地域対応等、さまざまな業務を抱え、多忙感が否めない。その結果、時間外勤務が定常化する職員も多い。この問題に対する努力のあとかうかがえるが、今後一層の改善を望む。
- ④ 手話の取組は不十分であるので、早急に年間計画を立て、実践していただきたい。